

令和6年度第5回岡崎市地域公共交通会議 会議録

1 開催及び閉会に関する事項

令和7年2月19日（水）15時15分～17時00分

2 開催場所

岡崎市役所東庁舎7階 東701号室

3 出席者氏名

(1) 出席者（19名）

松本	幸正	委員	（名城大学 理工学部社会基盤デザイン工学科 教授）
松尾	幸二郎	委員	（豊橋技術科学大学 建築・都市システム学系 准教授）
夫馬	康昌	委員	（名古屋鉄道(株)）
寺澤	秀樹	委員	（愛知環状鉄道(株)）
後藤	泰之	委員	（名鉄バス(株)）
玉置	文博	委員	（名鉄東部交通(株)）
浅岡	林平	委員	（愛知県タクシー協会岡崎支部）
猿渡	博士	委員	（愛知県交通運輸産業労働組合協議会）
長坂	秀志	委員	（岡崎市総代会連絡協議会）
鷲山	幸男	委員	（岡崎市老人クラブ連合会）
松原	秀敏	委員	（六ツ美中部学区エリアバス運営協議会）
鈴木	勝彦	委員	（額田地域生活交通協議会）
堺	啓太	委員	（国土交通省 中部運輸局）
渥美	宏	委員	（国土交通省 中部運輸局 愛知運輸支局）
森本	恭平	委員	（愛知県都市・交通局交通対策課）
能登谷	敦	委員	（愛知県 西三河建設事務所 維持管理課）
山本	公德	委員	（岡崎市 副市長）

(2) 出席者（意思表示書提出 5名）

豊田	智隆	委員	（東海旅客鉄道株式会社）
小林	祐之	委員	（(公社)愛知県バス協会）
多々内	丈雄	委員	（岡崎商工会議所）
浅野	宗夫	委員	（岡崎市障がい者福祉団体連合会）
山口	幸治	委員	（愛知県警察 岡崎警察署）

4 説明等のため出席した事務局職員の職氏名

岡田 晃典（総合政策部長） 木下 政樹（地域創生課長） 竹内 雅晴（主任主査）
熊谷 大輝（主事） 安藤 星哉（主事） 澤田 和樹（主事）
安藤 寛人（事務員）

5 傍聴者、随行者等

7名

6 協議事項

(1) 矢作デマンド実証実験第3期運行計画について

(2) R7六ツ美中部学区地域内交通「チョイソコおかざき」運行計画について

資料1及び2に基づき説明

<以下、各委員の意見等>

委員： 矢作デマンドの運行日の変更は木曜日に病院が休診の日であるからか。

事務局： 病院の休診が多いため、資料1—3裏面の「(3)曜日別の1日あたりの利用状況」のとおり木曜日の利用が少ない。一度運行の適正化を図り今後の利用状況を見ていく。

委員： （チョイソコおかざきの現状について説明）

委員： チョイソコ通信でチョイソコおかざきの便利でわかりやすい使い方を広報できるとよい。

委員： 矢作デマンドについて運行時間を短くしたことで予約がいっぱいで、利用したいときに予約できなくなる可能性はないか。

事務局： 矢作デマンドの現状の乗合率は1.06人と乗合はほとんど生じていない状況である。そのため、運行時間を短くすることで乗合が増え、予約型乗合タクシーの本来の目的が達成される。

委員： 稼働率が7割近くになっても予約が不成立になることはないか。

事務局： 先日の予約であれば予約が不成立になることは少ないと思う。

委員： 矢作デマンドについて、利用の前日までの予約を推奨しているが、翌週月曜の利用であれば前の週の月曜まで、金曜日の利用であれば水曜日まで予約をする認識でよいか。

事務局： その認識で間違いない。乗合率の向上及び、目的地までのルート最適化のためこのような呼びかけをしている。

委員： 何時頃の予約が多いのか。

事務局： 現状は直前の予約が多い。

委員： 高齢者の場合は予約していたことを忘れている場合も考えられるがそのような事例はあるのか。

委員： 実際に忘れていた事例はあり、利用時間に停留所になかった場合は、利用者に

確認の電話をいれている。

事務局： 必ずしも直前の予約を否定している訳ではなく、事前に予定が分かっている場合には予約をしていただくようにしてもらいたい意図である。

委員： 事前予約を促すために事前予約の金額を安くしたり、インターネット予約を促したい場合はインターネット予約の料金を安くするなどの方法を取るとよい。

委員： 実証するに当たって稼働率を見て判断するが、数字だけではなく、運転手の安全性も確保していただきたい。

(3) 地域内交通の手引「みんなでつくる 地域の交通」のアップデートについて

資料3に基づき説明

<以下、各委員の意見等>

委員： 資料3-2の2ページの自助に徒歩、自転車の追加を。4ページの葉の交通にタクシーの追加を。同ページ内下部の下線が引かれた表記について、岡崎市の交通全体を考えた際に公助で賄えないところを共助で補うのか、各地区での交通の導入にあたってまずは共助から考えていくのかどちらの認識か。

事務局： 2ページの徒歩、自転車の追加及び4ページのタクシーの追加については修正させていただく。各地区での交通の導入にあたってまずは共助から考えていく認識である。

委員： 資料3-2の5ページの「そのうち～」を見ると共助はバスやタクシーなどの自助でも輸送手段を確保することが困難な場合に導入されるとされているため、4ページの記載と齟齬が生じるのではないか。

事務局： 自助から共助それでも難しい場合は公助の順番にしていきたい。バスや電車、タクシーでの移動については自助であると考えている。そこにバス路線維持のための補助金が入るため公助という表現で記載している。

委員： 公助については、運行主体が行政であるものとして整理していただきたい。また、共助交通導入の前提として交通空白地であることを記載していただきたい。

事務局： 章構成を含め整理していく。

委員： (中部運輸局より情報提供)

委員： 三重県は共助交通について県より補助を受けている。愛知県はこのような補助を検討しているのか。

委員： 愛知県については共助交通の導入について専門人材を派遣する予定である。

委員： 幹、枝、葉の棲み分けということでバス停まで出れない方が共助交通によってバス停まで出れるようになれば交通の利便性も上がるため望ましい形である。

委員： 鉄道の役割は幹であり、枝や葉が枯れてしまえば、幹は成り立たなくなってしまうため、全体で支えていく必要がある。

委員： 駅として結節点の整備を大切にしていきたい。

委員： 共助について、既存の交通との調和が大切であることの記載は必ずしていただきたい。

(4) 次期岡崎市地域公共交通計画の策定について

資料4に基づき説明

<以下、各委員の意見等>

委員： 全面改訂のイメージでよいか。

事務局： そのイメージでよい。

(5) 岡崎城下家康公秋まつり（公共交通に親しむ日）の結果及び小学生のバス無料乗車デーの結果について

資料5に基づき説明

<以下、各委員の意見等>

委員： 中島周辺の住民に対して周知は行ったか？

事務局： 岡崎市としては行ってはいないが、停留所には変更の案内が出るため普段利用する方々は知ることができるようになっている。

委員： 中島周辺の住民が西尾市に行くことはあるのか。

事務局： 一定の利用があるが西尾市民の利用が中心。

7 報告事項

(1) 額田地域の公共交通に係るアンケート結果について

資料6に基づき説明

<以下、各委員の意見等>

委員： 現状の移動に困っている割合は12%であるが今後増加する可能性はあるか。

事務局： 額田地域は人口が減少している。また、市民アンケートによると80歳を超えると現状の移動に困る人の割合が増えていくため、今後増加する可能性はある。一方で額田地域は農業などの利用で軽トラをなかなか手放さない人も多いため、現状のコミュニティバスの利用者はかなり少なく、この人数の逆転がいつ起きるかである。

委員： 軽トラ利用者は運転できなくなるまで手放さないため、運転できなくなった後公共交通を利用できるかといわれると困難であると考えられる。この問題については福祉との連携も考える必要がある。

(2) エコ通勤集中取組日の結果について

(3) 公共交通フォトコンテストの結果について

(4) 自動運転バスの実証運行の結果について

(5) 桜まつりパーク&ライドの実施について

資料 7、8、9 及び 10 に基づき説明

<以下、各委員の意見等>

委員： 資料 10 について、ユニチカについては昨年実施していたが、利用はどの程度あったか。

事務局： 常時 70 台程度の利用がされていた。

委員： 明神橋公園を駐車場として開放はしないのか。

事務局： 駐車場としては開放している。公表するかは観光部局に相談をする。

8 連絡事項

来年度の会議のスケジュールについて連絡をした。

次回会議（令和 7 年第 1 回）予定について連絡をした。

— 会 議 終 了 —